

常照

第798号

人生晴れる日もあれば

曇る日もあります

良いこともだけど悪いことも

永くは続かないの

これを「無常」と申します



『新型コロナに遭って』

中国で発生したとされる新型コロナウイルスによる緊急非常事態宣言が最初に北海道に発令されてから、もう三月が過ぎました。当初は中国や韓国、クルーズ船観光客達だけの他人事位にしか思っていませんでしたが、みるみるうちに感染者が道内のみならず日本全国、全世界に蔓延してしまいました。それでもまだ、自分にとってはテレビの向こうの世界の話、自分は大丈夫、位に思っていました。

そうこうしている間にお寺の仏事

に關しても、やむなく御法事の縮小や延期、彼岸会や花祭りの院内勤めや中止等々、何時もの日常が激変してしまいました。

人間は「我こそ偉い」という気持ちで毎日生きています。しかし、今回の新型コロナウイルスによって、それは誤りであると自然界から厳しく突きつけられました。仏教徒として私たちがまず自覚すべきなのは、人間は自然の流れの中、無量無数の御縁の中で生かされて生きている存在に過ぎない、ということです。「人間こそ地球の主人」という傲慢な態度は捨てるべきなのです。目にも見えない、細胞の百分の一以下の

大ききしか無いウイルスによって、人類社会がどれほどダメージを受けていることか。仏教的に言えば、

地水火風が少しでも変調をきたしたら、もう私の生命は成り立たないのです。私たちは「生きていて当然」という思いを捨て、「今日も無事にお陰様で」という謙虚な心を育むべきです。冗談っぽく聴こえるかもしれませんが、これは真剣な事実なのです。一日生きていくということは奇跡です。身体の約四十兆の細胞はいつ変調をきたすかわからないし、また外部からの攻撃も絶えないのですから。私たち真宗門徒にとって「お陰様で」「有り難う」とお念佛申

しながら日々過ごすことは、僅かでも自我の慢心を抑えて心の安らぎを得ることができのです。

次に気を付けなければいけないのは、コロナの流行に対して怒りや憎しみを持っても何の意味もない、ということ。自然界は偉いのです。自然の力の前には、世界中の教会もモスクもお寺も、皆ウイルス感染を恐れて活動を中止しています。ですから、どうしても自然界には太刀打ちできないと理解すべきです。今、私たちはただお互いの生命を力を尽くして守らなくてはなりません。今回、新型コロナウイルスは私たちが人類にそのことを教えているので

す。分裂することなく、協力しあつて互いの生命を守りましょう。そうしない限り、皆の命は守れません。ウイルスに自分が感染しないように気をつけること、自分から他人に感染を広めないように気をつけることも慈悲行の実践です。そうして、一日も早く大きな声で笑ったり、皆で楽しく食事をしたりすることの出来る、やっと今、気がつくことのできた、有ること難い日常、安穩な日暮らしを取り戻せるよう、日々精進、合掌お念仏申していきましょう。

南無阿弥陀仏

七月の常例布教(こ法話)のご案内

○前期 七月七日(火)～十一日(土)

休 座

○後期 七月十三日(月)～十六日(木)

北海道教区 胆振組 真宗寺

講師 朝倉 恵昌 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使に「こ法話」をして頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、「こ聴聞」来院くださいますようお願いしております。尚、現在休座が続いておりますので、ご来院の際は、お電話にて開座のご確認をお願いいたします。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 二二一〇七四四番
FAX 二二九一四〇八〇番
テレホン法話 二二七一六一六番